Gibson Parts

Pickups

1923年当時ギブソンに在籍し、様々な面で影響を与えたロイド・A・ロアーによって製作されたギター用ピックアップは、実際に実用化されずに終わってしまい、ギブソン社として初めて世に送り出されたのは、それから10年を経た1933年、ウォルター・フラーが開発したものであった。EH-150ハワイアン・ギターに採用された後、ES-150ギターにも取り付けられ、チャーリー・クリスチャンをはじめとしたジャズ・ギタリスト等に愛用され、世界初の完成したピックアップと呼ばれるほどの高い評価を得たものである。

しかし、何といってもギブソンのピックアップといえば、セス・ラバーの設計によるP.A.F.＝"Patent Applied For"ハムバッキング・ピックアップで、1957年に初めてレス・ポール・スタンダードに搭載されたものである。現在ほとんどのモデルに採用されている1959RE-ISSUE HUMBUCKERは、オリジナルを可能な限り忠実に再現したもので、枯れて深みのあるメローなサウンドは1959年モデルのレス・ポールを彷彿させるサウンドを生み出している。

他に現在のラインで生産されているものは、Jr.に採用されているP-90 "Dog ear" Single coilやFlying-VやExplorerにマウントしている"Dirty Fingers"、そしてOriginal Humbucker、Super HumbuckerさらにSG Eliteに採用されている"Spotlight"等がある。

Machine Heads

現行ギブソンに採用されているマシンヘッド／ペグは3種類に大別できる。1つはレス・ポール58年モデルにマウントされていたスタイルのもので、アメ色プラスチックのシングル・キーストーン・ボタンでカバーにGibson Deluxeの文字が入ったKlusonタイプ。もう1つはGroverロートマチック・タイプ。そしてやはりGroverのミニタイプのものがあるが、クロームとゴールドの区別は別にして、Re-issueモデルを除いては、どのモデルにどのタイプのペグを採用するかについては、明確な基準はない様である。

他にオプションとしてSchaller "Crank"ペグがあり、これは先端のレバーを引き起こすことでスピーディーな弦交換を可能にしたものである。

Knobs

コントロール・ノブはギターのサウンドに何ら影響するものではないにもかかわらず、ギブソンに限ってはノブの違いにこだわりを持つプレイヤーが多い。しかし、ギブソンとしてはRe-issueを除いて、どのモデルにどのタイプのノブを採用するか明確な基準はなく、フィニッシュ等で外観的にマッチするノブをマウントしている。

Gibson Pickup

	Original Humbucker	Super Humbucking	1957 Re-issue Humbucking	Dirty Fingers	P-90
First Introduced In	1956	1971	1959		1946
Tone Character	Mellow Strong punching	Stronger, Hotter than Original	Beautiful Fat-smooth	Clarity & Strong highend	Terrific Sounding highend kick
Specifications:					
Inductance (Henries)	4.85	4.7	7.5	8.8	8.40
Resistance (Ohms/kOhm)	8.8	8.8	8.8	8.8	10.5
D.C. Resistance (kΩ)	7.9	7.9	10.6	10.6	7.6
Option				High-output "Super Dirty"	High-output "HP 90"

Bridge

ギブソンのブリッジといえば1954年以来、Tune-O-Maticであるが、これにも種類がある。以前は3ポイント・タイプやオールド・タイプと呼ばれるものがあったが、現在はABR-1とナッシュビルタイプの2つが主で、ABR-1Tune-O-Maticと呼ばれるものはオールド・タイプに見られたサドルがはずれ易いという欠点をリタイナースプリングで解消したものである。

Nashville-Tune-O-MaticはABR-1に較べサドルの可動範囲を広くとり、ブリッジ受けも安定性を高めているもので、Re-issueを除くほとんどのモデルに採用している。ちなみにサドルポジションの調整は、ABR-1タイプはネック側から、ナッシュビルタイプはテールピース側から行う。他にES-175等で木製ブリッジにTune-O-Maticをマウントしたものや、Super-400、L-5等でのオール木製ブリッジもある。

Tailpiece

テールピースとしてすぐ思い浮かべるのは、1952年のオリジナル・レス・ポールのレス本人が開発したことで有名なトラピーズ・テールピース(別称／ブランコ・テールピース)である。しかし、ブリッジも兼用するこのテールピースは、当時のレス・ポールのネック仕込角度の問題や弦の通し方そのものに問題があるとして翌53年、ただちにスタッド・テールピースに変更されてしまった。

このテールピースもやはりブリッジとしての機能を兼ねたコンビネーション・スタイルのもので、正確なオクターブ・チューニングは出来ず、1954年にこうした問題点を、解消する画期的なブリッジ、Tune-O-Maticの登場と同時に"Stop-bar"テールピースに変更され、以来ギブソンのテールピースのスタンダードとなっている。他にSGエリートやHoward Roberts-Fusion等に採用されている各弦ごとのテンション調整が可能な"TP-6"テイルピースがある。

またES-175やエピフォンのカジノ等にはレスのそれとは異なるが、やはりトラピーズ・テールピースを採用している。テンション調整こそ出来ないが、トラピーズ・タイプならではのサスティーンと外観に独特な雰囲気を生み出している。

Gibson Strings

Sonomatic Nickel Strings

ブロンズやステンレスに較べサスティーンはやや少なめであるが、立ち上りの鋭さという点で優れた特徴を示すのがニッケル弦。トータルバランスも極めて良く、ダークでまろやかなサウンドキャラクターは、ギブソンのESやアーティストコレクションといったジャズフィーリングのギターに最適。

G-Series Nickel Plated Steel Strings

スティールの芯材にニッケルメッキを施すことで、双方の優れた点を合わせ持ち、ブライトでパンチのきいたサウンドが身上。ピークからホールド、そしてディケイへの素早いレスポンスは、SGやJrでのホットなロックンロールにジャストフィット。

Power-Lines Stainless Steel Strings

ブリリアントなトーンニュアンスはブライトすぎず、メロウすぎず、かといってシャープすぎることもない。あえて形容すれば暖かみの中に力強さを兼ね備えたメトリックなサウンド。Les Paulをはじめとした、いわゆる"太い"ギブソンの音を求めるプレイヤーのためのセレクテッド・ギター・ストリングス。

On Tremolos

ギブソンがプロデュースする全てのプレインストリングスは、それぞれのマテリアルが生み出す独自のトーンを生かしながらも、今や改良の余地のないほどのハイメカニズムの様々なスーパーアーミングマシンにフル対応できる"ダブル・ツイスト・ロッキング・システム"を採用。

Gibson Strings

	Series	Material	Gauge/Tuning					
For Guitar	GP-700L	Nickel Plated Steel	.010E	.013B	.017G	.026D	.036A	.046E
	GS-700XL		.009E	.011B	.016G	.024D	.032A	.042E
	GS-700XXL		.008E	.011B	.014G	.022D	.030A	.038E
	Power Line Mega Volt	Stainless Steel	.010E	.013B	.017G	.026D	.036A	.046E
	Power Line Kilo Volt		.009E	.012B	.016G	.024D	.036A	.046E
	Power Line Micro Volt		.008E	.011B	.016G	.022D	.036A	.046E
	GHS Nickel	Nickel	.011E	.015B	.020G	.034D	.045A	.054E
For Bass	GHS Stainless	Stainless Steel	.045E	.065B	.085A	.105E		